

2020年11月4日

スズキ、世界耐久選手権(EWC)参戦体制を発表

ファクトリーチーム「ヨシムラSERT Motul」参戦

スズキ株式会社は、二輪車による耐久ロードレースの最高峰である、国際モーターサイクリズム連盟(以下 FIM)主催の「2021 FIM 世界耐久選手権(EWC)」に株式会社ヨシムラジャパン(以下ヨシムラ)共同で参戦する。

スズキは、ブランド力の訴求と高い技術力を証明する目的でロードレース世界選手権(MotoGP)に参戦している。また、お客様へ当社商品の高い性能、快適性などの商品力、技術向上を目指して二輪車のレース活動を通して技術開発を行ってきた。その中でも、市販車両をベースにした世界耐久選手権(EWC)は長時間の連続走行を強いられるマシン、ライダー、チームにとって非常に過酷なレースである。スズキは、GSシリーズ、その後継のGSX-Rシリーズで19回の年間チャンピオンを獲得しているが、特に1980年より「SERT(スズキ エンデュランス レーシングチーム)」と共に挑戦を続け、1983年にはじめて年間チャンピオンとなって以来、これまでに16回の年間チャンピオンを獲得している。

ヨシムラは1954年の創業以来、レース用4ストロークエンジンのチューニングや二輪車用品を手掛け、1971年より米国の二輪車レースに参戦し、翌年には活動拠点を設立するなど、いち早く海外レースに挑戦してきた。また、日本国内では1978年の第1回鈴鹿8時間耐久レースの優勝をはじめ、数々のレースで輝かしい成績を収めており、世界的なチューナーとして二輪車の発展に貢献している。1976年にスズキ初の大型4ストローク車(GS750)のレース車両開発に協力して以来、現在に至るまでスズキと共に鈴鹿8時間耐久を中心にレース活動を続けている。

スズキは、2019-2020年シーズンにヨシムラ、SERTと共にマシン開発を進めEWC年間チャンピオンを奪還した。2021年シーズンは、チーム運営をヨシムラに委託し「ヨシムラSERT Motul」として参戦体制をファクトリーチームとして更なる強化を図る。「SERT」で培ってきたレーシングチームとしてのノウハウに加え、レース車両のチューニング、チームマネジメントに高い能力を持つ「ヨシムラ」と共同で参戦することで、「チーム スズキ」を具現化するチームワークが勝敗に大きく影響するEWCの連覇を目指す。

スズキは、レース活動を通して市販車両の高次元の商品性の実証と、二輪商品へのフィードバックを行うことで、より魅力的な商品の開発を進め、ブランドイメージの向上を図る。

●参戦車両 スズキ GSX-R1000R

全長×全幅×全高	2,075mm×705mm×1,145mm
ホイールベース	1,420mm
車両重量	175kg以上
エンジン形式	水冷4サイクル直列4気筒DOHC4バルブ
排気量	999cm ³
最高出力	160kW(217PS)以上
エキゾーストシステム	ヨシムラR-11sq RレーシングチタンサイクロンSPL
ギヤボックス	6速
フレーム形式	アルミツインスパー
タイヤ(フロント/リヤ)	ブリヂストン製 17インチレーシングタイヤ
フロントサスペンション	オーリンズ製 倒立フォーク
リヤサスペンション	オーリンズ製 RSPリアショック
ブレーキ(フロント/リヤ)	ブレンボ製スチールディスク/サンスター製スチールディスク



ヨシムラSEAT Motul SNS

Instagram : https://www.instagram.com/yoshimura_sert_motul_official/

Twitter : https://twitter.com/Yoshimura_SERT

Facebook : <https://www.facebook.com/yoshimura.sert.motul/>